

増大傾向を呈した 副腎偶発腫瘍の一例

研修医2年 H.S.

＜症例＞

60歳代 男性

＜主訴＞

胸焼け, 上腹部痛.

＜現病歴＞

腹部超音波検査にて胆嚢ポリープを指摘された. 精査目的にて同年5月に当院消化器内科を紹介され, 受診し, 腹部造影CT検査を施行.

＜家族歴＞

特記事項なし

＜既往歴＞

虫垂炎

＜身体所見＞

特記事項なし。

<血算・生化学検査>

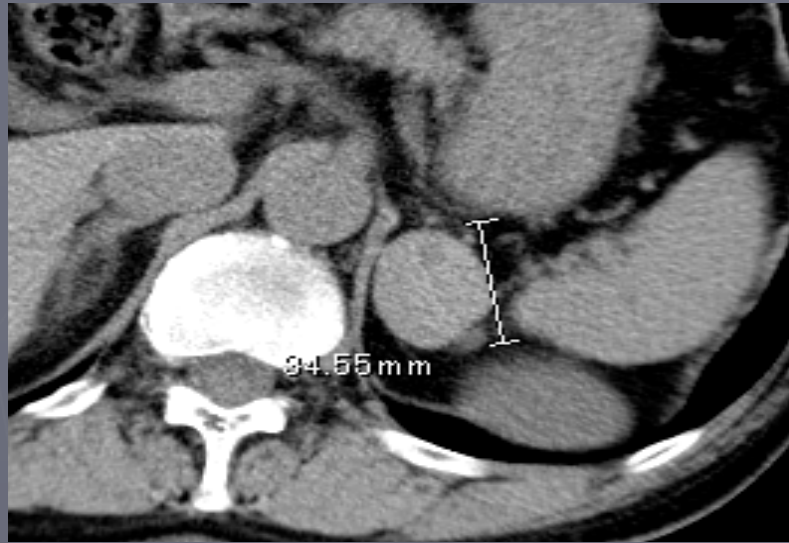
WBC 6,300 / μ l
RBC 474×10^4 / μ l
Hb 14.8 g/dl
Ht 44.0 %
Plt 16.7×10^4 / μ l

AST 25 IU/l
ALT 27 IU/l
LDH 236 IU/l
ChE 413 mU/ml
T-Bil 0.7 mg/dl
D-Bil 0.1 mg/dl
ALP 198 IU/l
 γ -GTP 34 IU/l
TP 6.9 g/dl
Alb 4.5 g/dl
UN 16 mg/dl
Cr 0.80 mg/dl

Na 141 mmol/l,
K 4.9 mmol/l
Cl 106 mmol/l
CRP <0.04 mg/dl

ACTH 36.7 pg/ml
DHEA-S 147 μ g/dl
Cortisol 20.5 μ g/dl
Aldosterone 130.0 pg/ml
PRA 0.6 ng/ml/hr
Adrenaline 61.0 pg/ml
Noradrenaline 390 pg/ml
Dopamine 16 pg/ml

腹部造影CT



單純



早期相

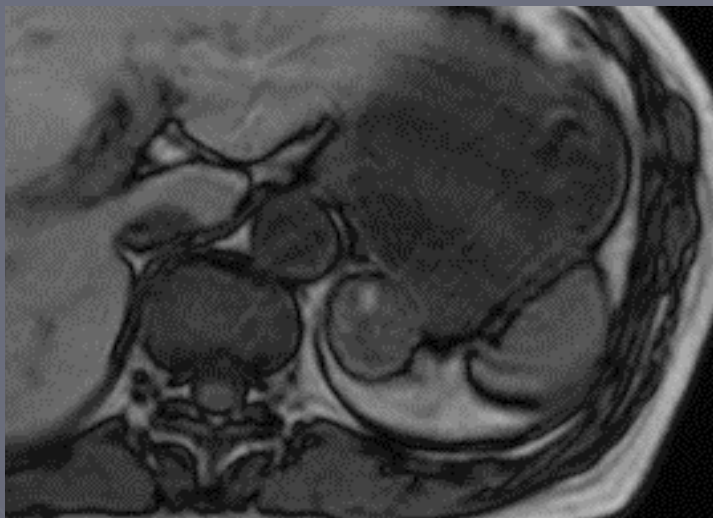


門脈相

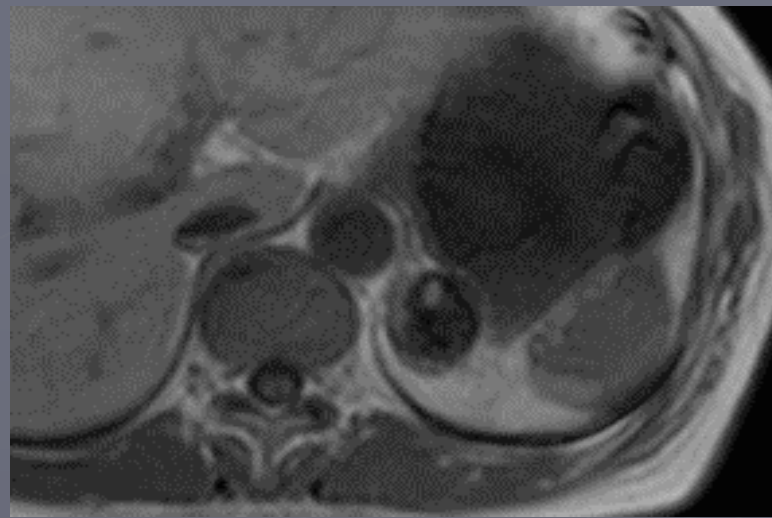


平衡相

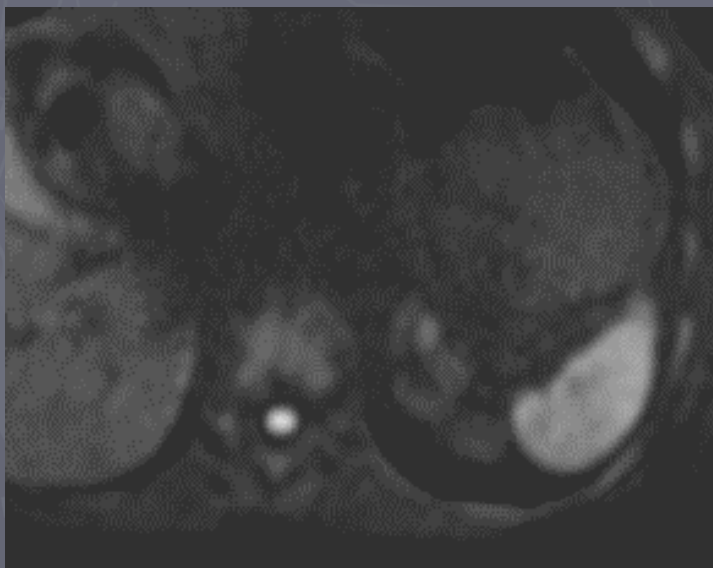
腹部単純MRI



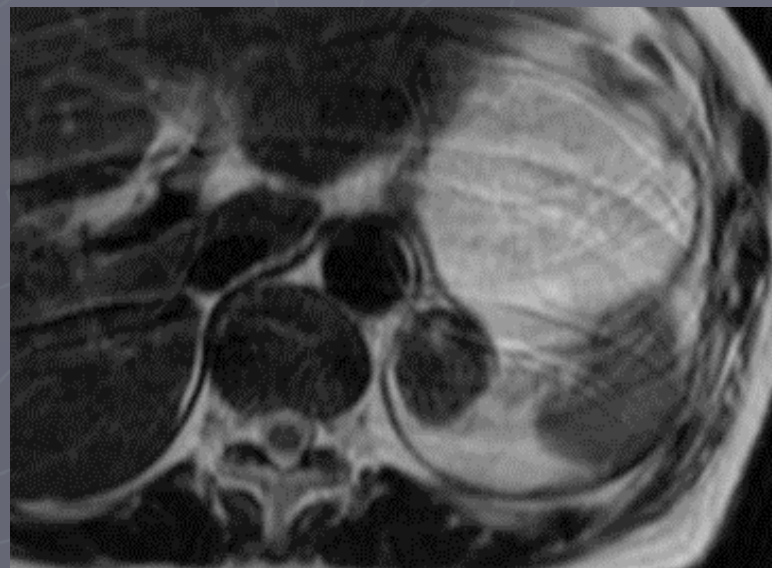
T1強調画像 (in phase)



T1強調画像 (out phase)



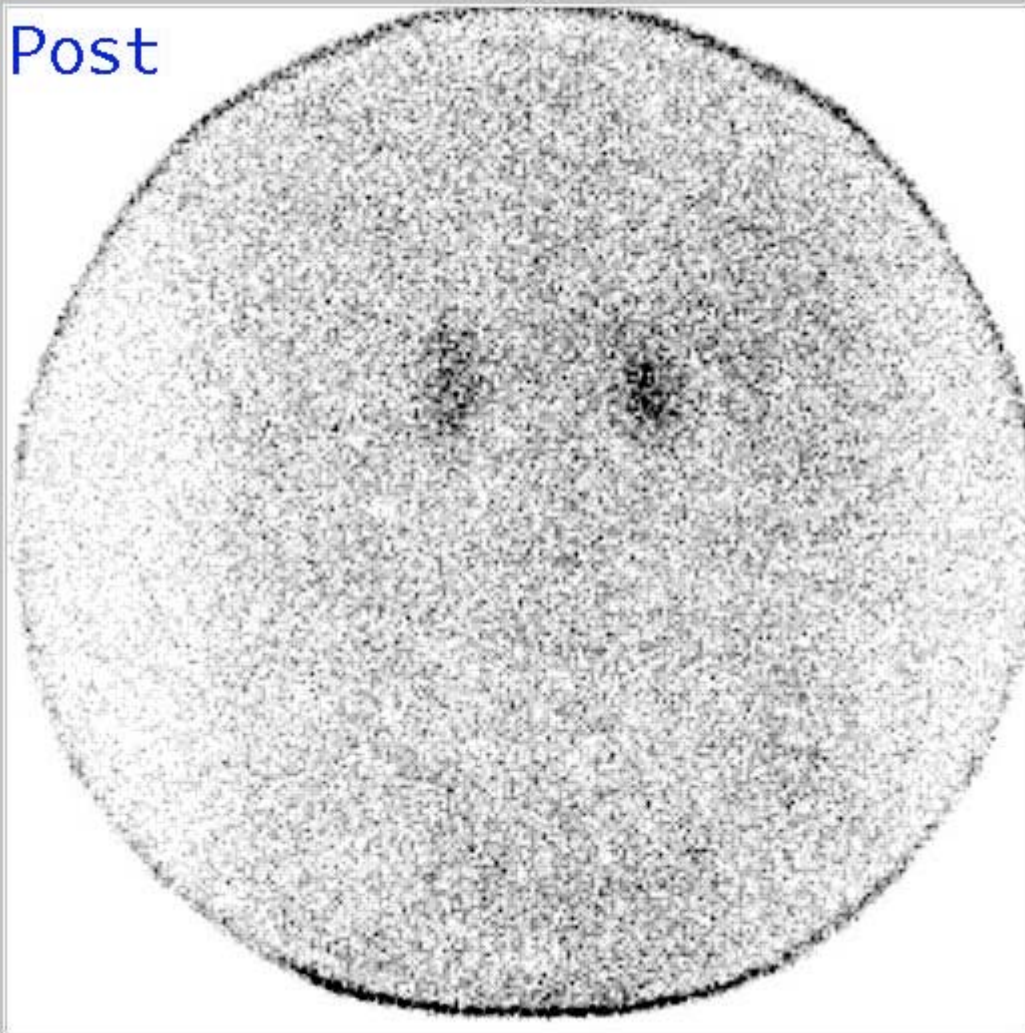
拡散強調画像



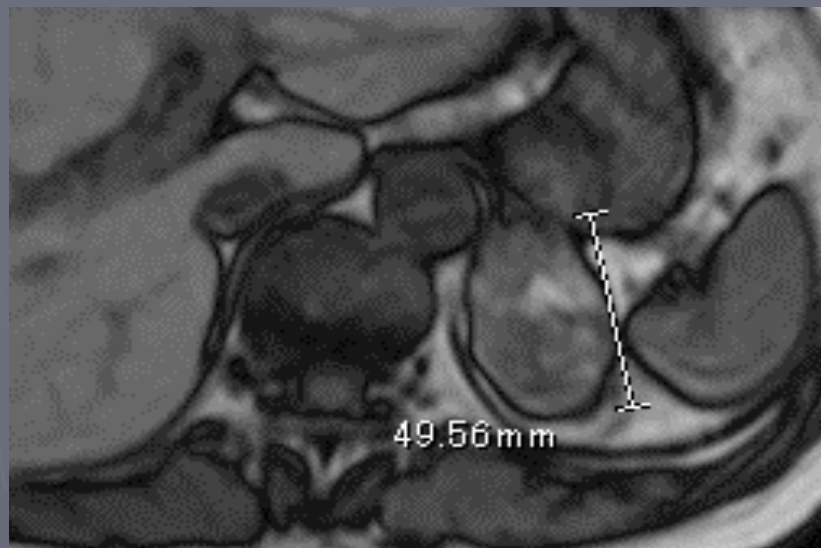
T2強調画像

^{131}I シンチグラフィ

Post



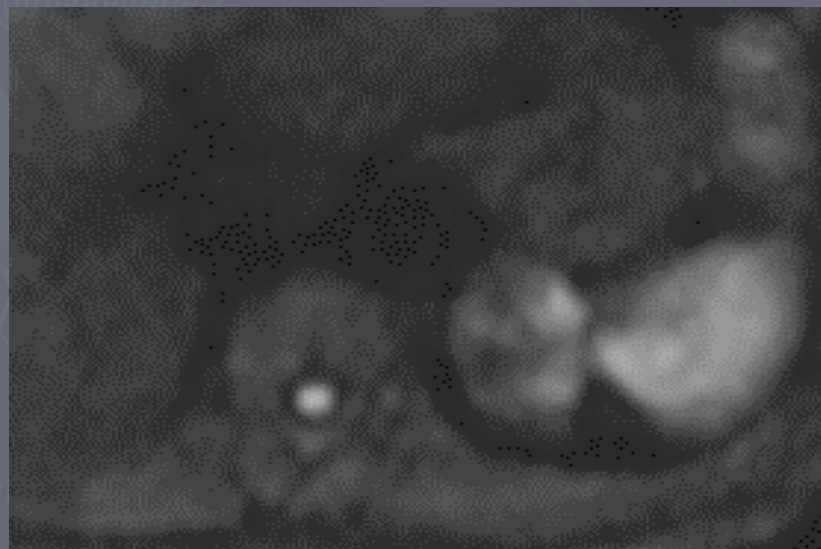
腹部单纯MRI



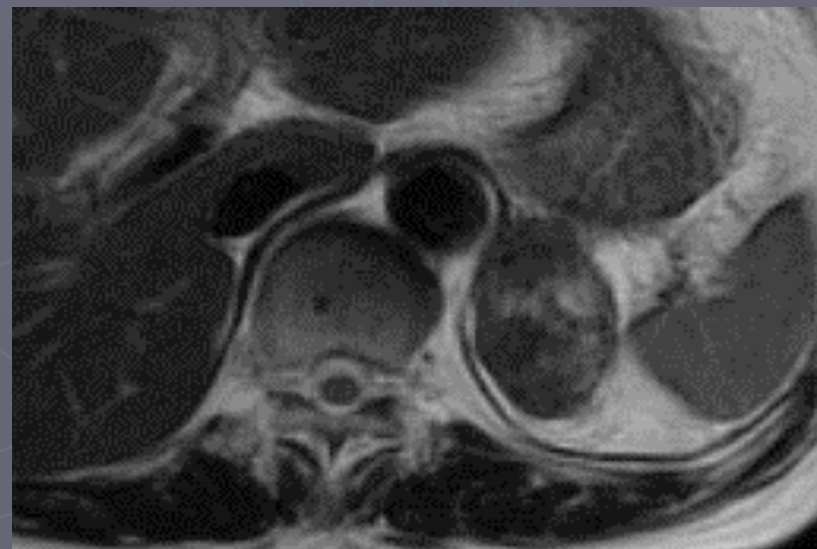
T1強調画像(out phase)



T1強調画像(in phase)



拡散強調画像



T2強調画像

腹部单纯CT



冠状断

副腎癌の画像所見

- ・大きさが6cm以上.
- ・内部に出血, 壊死を伴う.
- ・石灰化は約40%に見られる.



副腎偶発腫瘍の鑑別疾患

- ・ 良性腫瘍

皮質腺腫、骨髄脂肪腫、血管腫、嚢腫

- ・ 悪性腫瘍

副腎癌、転移性腫瘍、悪性リンパ腫

- ・ その他

副腎出血、感染症

副腎偶発腫瘍の鑑別

副腎偶発腫瘍



内分泌学的検査



副腎摘出術

ホルモン産生能あり



画像検査

非造影CT: CT値 < 10HU
造影CT: CT値 < 30HU
化学シフトMRI: T1 out-of-phaseのシグナル低下

Yes

No

良性腫瘍の疑い

悪性腫瘍の疑い

副腎以外に悪性腫瘍あり

副腎生検を考慮

腫瘍径

副腎以外に悪性腫瘍なし

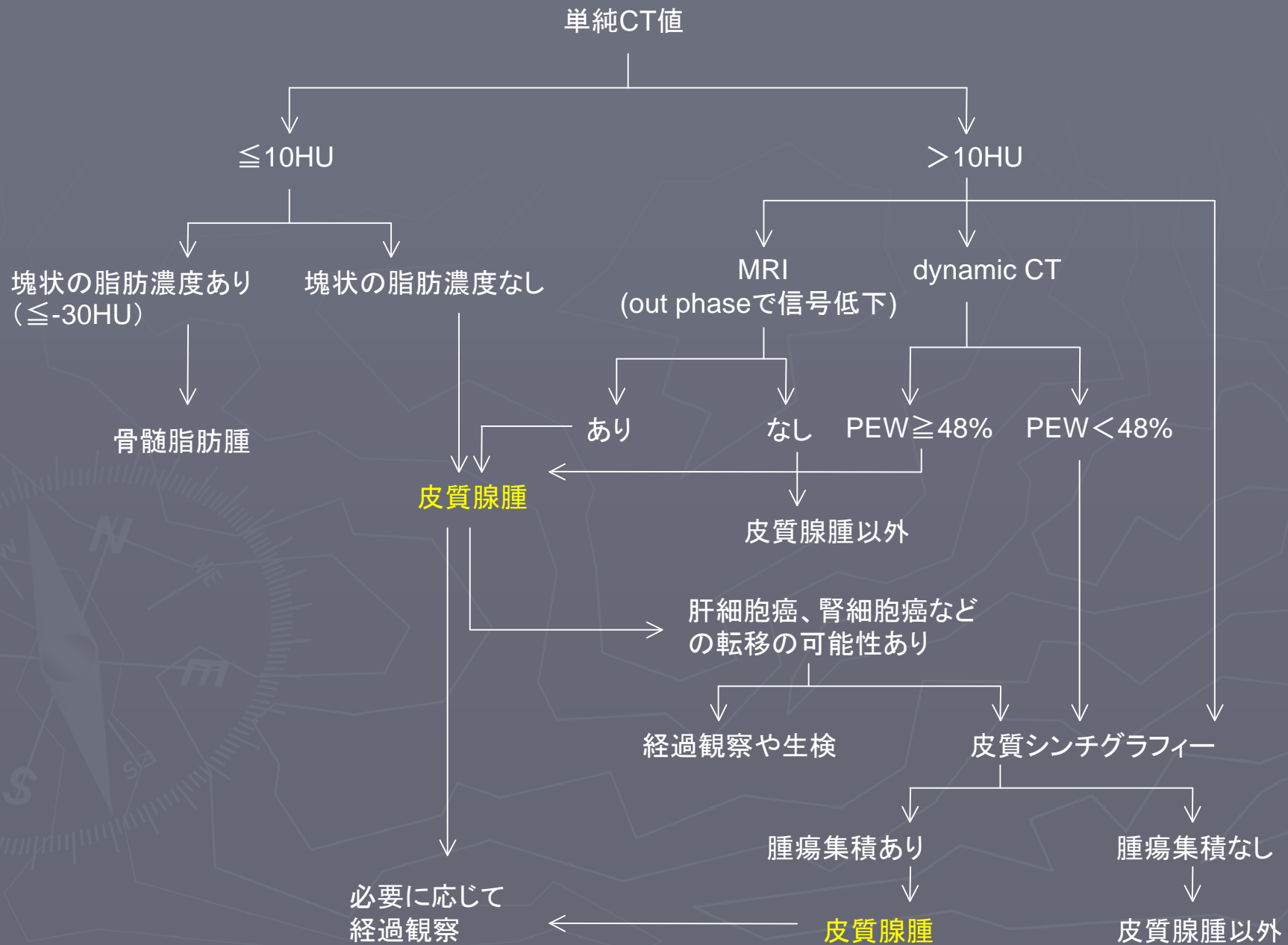
< 4cm

≥ 6cm

経過観察

副腎摘出術

副腎腺種か否かに重点をおいた偶発腫瘍の鑑別



結語

- ・副腎癌の画像診断を経験した.
- ・副腎偶発腫瘍の鑑別は画像検索を含めて内分泌学的検査を総合して行うことが重要である.